

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成29年1月26日(2017.1.26)

【公表番号】特表2016-502149(P2016-502149A)

【公表日】平成28年1月21日(2016.1.21)

【年通号数】公開・登録公報2016-005

【出願番号】特願2015-548385(P2015-548385)

【国際特許分類】

G 1 0 K 11/172 (2006.01)

【F I】

G 1 0 K 11/16 E

【手続補正書】

【提出日】平成28年12月6日(2016.12.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

担体要素(31)と膨張性材料(33)とを含む遮蔽要素(30)であって、
前記担体要素(31)が複数のスルーホール(36)を有し、
前記担体要素(31)の一方面のみが前記膨張性材料(33)で少なくとも部分的に覆
われており、

前記膨張性材料(33)が前記スルーホール(36)を少なくとも部分的に塞ぐことを
特徴とする、遮蔽要素。

【請求項 2】

乗物又は建造物の開口部及び／又はキャビティの防音用であることを特徴とする、請求
項 1 に記載の遮蔽要素。

【請求項 3】

前記膨張性材料(33)が前記スルーホール(36)内を実質的に前記担体要素(31
)の自由面まで延びることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の遮蔽要素。

【請求項 4】

前記担体要素(31)の総面積に対する前記スルーホール(36)の面積の割合が、2
0%～70%に相当することを特徴とする、請求項 1～3 のいずれか に記載の遮蔽要素。

【請求項 5】

前記担体要素(31)の総面積に対する前記スルーホール(36)の面積の割合が、3
0%～60%に相当することを特徴とする、請求項 4 に記載の遮蔽要素。

【請求項 6】

前記担体要素(31)の総面積に対する前記スルーホール(36)の面積の割合が、3
0%～50%に相当することを特徴とする、請求項 5 に記載の遮蔽要素。

【請求項 7】

前記担体要素(31)の総面積に対する前記スルーホール(36)の面積の割合が、3
0%～40%に相当することを特徴とする、請求項 6 に記載の遮蔽要素。

【請求項 8】

前記スルーホール(36)が円形又は楕円形であることを特徴とする、請求項 1～7 の
いずれかに記載の遮蔽要素。

【請求項 9】

前記スルーホール(36)が円形であることを特徴とする、請求項8に記載の遮蔽要素

。

【請求項10】

前記担体要素(31)が、断面が縮小した辺縁部(31a)を有することを特徴とする、請求項1～9のいずれかに記載の遮蔽要素。

【請求項11】

前記担体要素(31)が、プレート状であることを特徴とする、請求項1～10のいずれかに記載の遮蔽要素。

【請求項12】

請求項1～11のいずれかに記載の遮蔽要素の前記膨張性材料(33)が、前記膨張性材料(33)で少なくとも部分的に覆われている前記担体要素(31)の面とは反対の前記担体要素(31)の面(32)の周辺部上に膨張していることを特徴とする、膨張した遮蔽要素。

【請求項13】

前記担体要素(31)の一方面が密閉層で覆われており、

前記担体要素(31)の他方の反対面(32)は、前記スルーホール(36)の周辺近くの部位において、膨張した材料(33')で少なくとも部分的に覆われていることを特徴とする、請求項12に記載の膨張した遮蔽要素。

【請求項14】

前記自由面(32)の50%～95%が、膨張した材料(33')で覆われていることを特徴とする、請求項12又は13に記載の膨張した遮蔽要素。

【請求項15】

前記自由面(32)の50%～90%が、膨張した材料(33')で覆われていることを特徴とする、請求項14に記載の膨張した遮蔽要素。

【請求項16】

前記自由面(32)の60%～75%が、膨張した材料(33')で覆われていることを特徴とする、請求項15に記載の膨張した遮蔽要素。

【請求項17】

前記担体要素(31)の完全に覆われている面において、凹部が前記スルーホール(36)上に形成されることを特徴とする、請求項12～16のいずれかに記載の膨張した遮蔽要素。

【請求項18】

陸上、空中又は水上の乗物の開口部及び/又はキャビティ、及び/又は建造物のキャビティの防音及び/又は強化のための請求項1～11のいずれかに記載の遮蔽要素(30)の使用。

【請求項19】

開口部又はキャビティを防音及び/又は強化する方法であって、請求項1～11のいずれかに記載の遮蔽要素(30)を前記開口部又は前記キャビティに導入し、続いて膨張性材料(33)を膨張させることを特徴とする、方法。